

Liu Xiao Bo

京都産業大学日本文化研究所主催シンポジウム

劉曉波と“民間”の思想

—新しい民主主義を求めて—

2008年12月9日、中国の大幅な民主化を求める「08憲章」が303名の連名でインターネット上に公開された。

この「08憲章」を産み出したのは劉曉波一人ではない。

そこには「天安門の母たち」の粘り強い

理性的な戦いに代表される「民間」の胎動がある。

「未来の自由な中国は民間にあり」と劉曉波がいうとき、

彼はそこにどのような可能性を見ているのか。

そして日本の「民間」は、それにどう応答していくのか。

ノーベル平和賞の是非を議論するのではなく、

劉曉波の「民間」の思想が

我々に問いかけている問題は何かをともに考えてみたい。

「六四」、一つの墳墓
永遠に永眠できない墳墓
忘却と恐怖の下に
この日は埋葬された
記憶と勇気の中で
この日は永遠に生き続ける
（劉曉波「六四、一つの墳墓」より 劉燕子訳）

プログラム

①基調講演 13:10～13:40

子安 宣邦(大阪大学名誉教授)

「劉曉波—われわれの問題としての—」

②シンポジウム 13:45～16:30

シンポジスト

及川 淳子(法政大学客員学術研究員)

「劉曉波の思想と行動—私には敵はいない」

劉 燕子(関西大学非常勤講師・作家・翻訳家)

「〈私には敵はいない〉から学ぶこと—憎悪と流血は避けられるか—」

楊 海英(静岡大学教授)

「中国の民主化と民族問題—少数民族への視線は変わるか」

麻生 晴一郎(ルポライター)

「新しい中国の主役としての民間—現代アート・NGOの台頭と新しい日中交流—」

コメンテーター／志賀 浄邦(京都産業大学日本文化研究所員・文化学部講師)

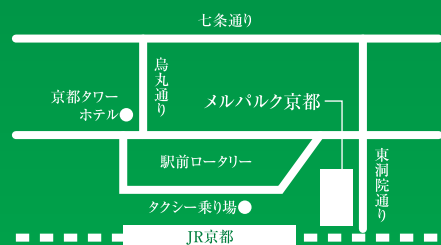
鬼塚 哲郎(京都産業大学文化学部教授)

総合司会／宮川 康子(京都産業大学日本文化研究所長)

2011.3.12(土)

13:00～16:30(12:30開場)

メルパルク京都 5階会議室B



主催／京都産業大学日本文化研究所

京都産業大学

京都産業大学日本文化研究所主催シンポジウム

劉曉波と“民間”の思想

—新しい民主主義を求めて—



劉曉波(Liu Xiao Bo)氏
について

中国の文芸批評家、民主化運動の活動家。1955年、吉林省長春市生まれ。1984年、北京師範大学文学部で修士後取得の後、同大学で教員となる。1988年に博士号を取得、同年米国のコロンビア大学滞在中に天安門民主化運動を知り、翌1989年4月、ニューヨークで「中国民主連盟」の仲間とともに公開書簡を発表し、学生たちに民主化運動の推進を呼びかける。帰国後、6月2日から天安門広場で学生とともに軍事管制に抗議するハンストを実行。武力鎮圧が始まると、犠牲を最小限に止めるべく尽力。その後すべての公職を失い、1991年まで「反革命罪」で投獄。その後、再三投獄されながらも文筆活動、民主化運動に従事。2008年12月、中国の大幅な民主化を求める「08憲章」の中心的起草者であることを理由に拘束され、翌2009年6月に「国家政權転覆扇動罪容疑」で逮捕される。

講演者



子安宣邦

(こやすのぶくに)

1933年生まれ。大阪大学名誉教授。専門は日本思想史。著書に「『宣長問題』とは何か」、「伊藤仁斎の世界」、「国家と祭祀」、「昭和とは何であったか」、「アジア」はどう語られてきたのか、「日本ナショナリズムの問題」、「思想史家の読んだ論語」など多数。



及川淳子

(おいかわじゅんこ)

桜美林大学大学院博士前期課程(日中関係専攻)修了後、大学で中国語講師を務め、2005年—2007年、北京の日本大使館にて専門調査員。現在は、通訳・翻訳・執筆業に従事。著書に「中国語をはじめよう!」、「とにかく30秒話す中国語基本フレーズブック」など。



劉燕子

(リウ・イエンス)

関西大学非常勤講師(中国語)。作家、翻訳家。日本語と中国語の雑誌「藍Blue」を発行するも、中国国内で発禁処分。劉亦武著「中国低層訪談録」、劉震雲著「ケータイ」、「温故一九四二」など翻訳多数。現在中国亡命知識人たちをインタビューしたドキュメントを執筆中。



楊海英

(ヤン・ハイイン)

1964年内モンゴル自治区オルドス生まれ。北京第二外国語学院大学日本語学卒業。89年来日。国立民族博物館・総合研究大学院博士課程修了。博士(文学)。2000年に日本国籍を取得。日本名は大野旭。2002年から静岡大学人文学部教授。専門はモンゴル学。著書「墓標なき草原」(岩波書店)は、司馬遼太郎文学賞を受賞した。



麻生晴一郎

(あそう・せいいちろう)

1966年生まれルポライター。東大在学中の80年代後半に中国上海、ハルビンなどを放浪。中国ウオッチを続けている。著書に「北京芸術村、抵抗と自由の日々」、「旅の指差し会話帳中国」、「反日、暴動、バブル」など話題書多数。

コーディネーター



宮川康子

(みやがわやすこ)

専門は日本思想史。千葉大学留学生センター、京都産業大学文化学部教授を経て現職。著書に「富永伸基と懐徳堂」(ベリカン社)、「自由学問都市大坂」(講談社メチエ)。翻訳にヘルマン・オームス著『徳川ビレッジ』(ベリカン社)など。現代において、懐徳堂の精神であった市民から発信する知的ネットワークの構築を目指している。



志賀浄邦

(しがきよくに)

専門は、インド/チベット仏教とジャイナ教思想。京都大学文学研究科より学位を取得後、現職。最近B.R.アンベードカル博士によってその端緒が開かれた現代インドにおける仏教復興運動にも注目している。インド仏教の有力な指導者である日本人僧・佐々井秀嶺師による著書「必生闘う仏教」(集英社新書)では、巻末の用語解説を担当した。



鬼塚哲郎

(おにつかてつろう)

専門はスペイン語文学。90年代京都に起こったエイズ、セクシュアリティ、現代アートをめぐる運動に関わる。1998年、大阪北区にゲイ・バイセクシュアル男性向けエイズ予防NGOを設立、以後、代表を務める。

参加ご希望の方は、
往復はがきで下記まで
お申し込みください。

定員100名 先着順
締切日/3月7日(月)必着

〒603-8555
京都市北区上賀茂本山
京都産業大学
日本文化研究所「シンポジウム係」行
【メールでの問い合わせ先】
sympo-0312@star.kyoto-su.ac.jp